

第13回『エネルギー政策検討会』

日 時；平成14年2月12日（火）午後2時から

場 所；ホテル福島グリーンパレス 2階 「瑞光の間」
〔福島市太田町13-53 電話024(533)1171〕

■ 次 第

- (1) 開 会
- (2) 知事あいさつ
- (3) 講 義
「原子力政策について」
物理学者・技術評論家 桜井 淳 氏
- (4) 意見交換
- (5) 閉 会

■ 傍聴上の留意点 ※ 御不明の点は、係員にお聞きください。

傍聴される方が以下の点を守らない場合には退場していただくことがあります。
会議中、会場の秩序維持ができなくなった場合、及び緊急的に公開できない事項を取り扱う必要が生じた場合は、会議を途中で非公開とする場合があります。

- ① 検討会開催中は、静粛に傍聴すること。
特に、携帯電話、アラーム付き時計等の取り扱いに留意してください。
- ② 建物の内外を問わず、のぼり、旗、プラカード、鉢巻き、たすき、ゼッケン、その他示威のために利用すると認められるものを携帯又は着用しないこと。
- ③ 会議における発言に対して批評を加え、又は拍手その他の方法により公然と賛否を表明しないこと。
- ④ 談話をし、又は騒ぎ立てるなど会議の妨害となるような行為をしないこと。
- ⑤ 会場内においての飲食又は喫煙をしないこと。
- ⑥ 会議中は、むやみに席を移動しないこと。
- ⑦ その他、会議の議事運営に支障となる行為をしないこと。

■ 講師紹介

氏 名 桜井 淳 (さくらい・きよし)。物理学者・技術評論家。
(1946年、群馬県生まれ)

主な経歴 1976年、東京理科大学理学専攻科物理学専攻課程修了。

日本原子力研究所材料試験炉部計画課での仕事をまとめ「原子炉物理学の研究」で理学博士号(理博乙第213号、東京理科大学、1984年)。

現在、東大でふたつめの博士論文の審査中。

科学技術庁管轄の日本原子力研究所で材料試験炉(JMTR)の炉心安全解析に8年間従事(1976-84年)。

通産省管轄の原子力発電技術機構・原子力安全解析所で原子力発電所安全審査のためのクロスチェック安全解析(大飯3号機、大飯4号機、浜岡4号機、女川2号機)に4年間従事(1984-88年)。

著書26冊 『これからの原発をどうするか』(電力新報社1989年)

『原発事故学』(東洋経済新報社1990)

『原発の「老朽化対策」は十分か』(日刊工業新聞社1990年)

『美浜原発事故-提起された問題-』(日刊工業新聞社1991年)

『崩壊する巨大システム』(時事通信社1992年)

『原発事故の科学』(日本評論社1992年)

『新幹線「安全神話」が壊れる日』(講談社1993年)

『新幹線が危ない!』(健友館1994年)

『原発システム安全論』(日刊工業新聞社1994年)

『旧ソ連型原発の危機が迫っている』(講談社1994年)

『原発のどこが危険か』(朝日選書1995年)

『ロシアの核が危ない!』(TBSブリタニカ1995年)

『事故は語る-人為ミス論-』(日経BP社2000年)

『プルサーマルの科学』(朝日選書2001年)

『桜井淳著作集』(全12冊)(論創社2002-2003年)

共 著 『中国の環境問題』(中国研究所1995年)

『事故は語る』(日経PB社1998年)

Ed. Yoichi MASUZOE 『Years of Trial -JAPAN in the 1990s』(JAPAN ECHO INC. 1999年)

『日本人の選択』(小学館、2001年)

分担執筆 『小学館・全日本百科事典』

『朝日現代用語事典・知恵蔵』(1995-98年)

『ブリタニカ国際年鑑』(1998年より)

監 修 『原子力事故・自衛マニュアル』(青春出版社、1999年)

日本原子力学会学術書分担執筆

『原子炉構造材照射損傷評価と線量測定』(1985年)

『ガンマ線遮蔽設計ハンドブック』(1988年)

『中性子遮蔽設計ハンドブック』(1993年)

『モンテカルロシミュレーション研究の現状と課題』(2001年)

分担執筆 『博士学位論文－内容要旨及び審査結果の要旨』第18集
(東京理科大学1984年)

ハングル語訳本 韓国原子力安全技術院報告書KINS/AR-322 (1995年)
著書『原発のどこが危険か』(朝日選書)の訳

ロシア語訳論文 Амoмная мехHцка За РУБеЖOm (1983. 11)
Nucl. Instr. Methods, Vol. 201, pp. 439-
444 (1982)の訳

日本原子力研究所職期間執筆学術論文計84編

内訳 [学会誌等Aクラス論文25編(内ファーストネーム論文15編)、国際会
議等Bクラス論文47編(内ファーストネーム論文30編)、原研未公開研
究報告書等Cクラス論文8編(内ファーストネーム論文8編)、その他等D
クラス論文4編(内ファーストネーム論文1編)]。

過去の兼務・兼職経験

日本原子力研究所シグマ研究委員会、同炉物理委員会遮蔽専門部会、同原子力
コード委員会原子力コード評価専門部会、日本原子力学会原子炉線量評価研究
専門委員会、同遮蔽研究専門委員会、同原子炉熱流動研究専門委員会、同モン
テカルロ研究専門委員会(委員会設立者)、日本原子力産業会議嘱託(森一久専
務理事の補佐役)、原子力安全協会環境懇談会、以上計約200回の会合に出席。

国際会議参加 約20回。

技術評論家として執筆した科学技術論文1000編。

NHK テレビのニュース番組を初め民放各社テレビのニュース番組に総計80回出演。

現在、システム安全論の研究を行っている。